

# 海外生活 エッセー

シンガポール事務所

## シンガポール最高峰挑戦記

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 白井 万智子 (広島県派遣)

### → いざ頂点を目指して

ある週末の朝、MRT（地下鉄）駅に集合し歩くこと約30分、シンガポール最高峰「ブキ・ティマ」の頂上に到達しました。タクシー？ケーブルカー？いいえ、必要ありません。ブキ（Bukit）とはマレー語で「丘」という意味だそうです、その名のとおり、シンガポールで一番標高が高い場所は、たったの海拔163.63mです。

なお、マリーナベイサンズの屋上プールの高さが200m、国内で一番高いビルは290mと、街中のビルの方がよほど高いことが分かります。



ブキ・ティマ頂上にある標高表示とトレイルコース

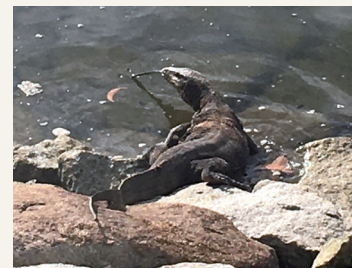
頂上の周囲は木々に囲まれており、あいにく眺望はよくありません。しかし、さらに奥にある複数のトレイルを進むと、日本とは異なる熱帯特有の緑に囲まれて散策を楽しめると同時に、高層ビルのそびえたつ都市国家シンガポールにいるとは思えない気分を味わえます。

### → 4つの自然保護区

ブキ・ティマのあるエリアは国が定める自然保護区の1つです。認定された順に、①ブキ・ティマ自然保護区（中央部）、②セントラル・キャッチメント自然保護区（中央部）、③スガイ・ブロー湿地保護区（北西部、マレーシアとの国境近く）、④ラブラドル自然保護区（南部海岸沿い）の4つがあります。これらは法律に基

づいて保護されるとともに、遊歩道等が整備され、市民の憩いの場としても親しまれています。

執筆時点で私が訪問したことがあるのは①と③ですが、早朝にも関わらず多くの方が、ランニングやウォーキング、ペットの散歩など



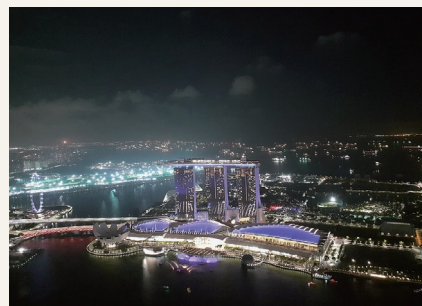
自然保護区で出会ったオオトカゲ

をしている姿を見かけました。中心部から30分程度で行ける場所も多く、交流の場、健康づくりの場になっていると感じました。また、毎回必ず、オオトカゲやリス、サルなどの生き物に出会えるのも嬉しいポイント。残りの2つの保護区も近いうちに必ず制覇したいです。

2019年12月、新しいMRTの建設にあたり、②の自然保護区の地下約70mの深さにトンネルを通すことが発表されました。これに対し、一部国民やNGO団体からは、生態系に悪影響を及ぼしかねないという懸念も聞かれ、今後の議論に注目が集まります。

### → 都会の最高峰

さて、最高峰からの眺めが残念でもご安心を。世界で一番高いルーフトッパー（282m）がシンガポールにはあり、マリーナベイサンズを見下ろしながら、海に浮かぶ無数の船まで見渡せます。当地にお越しの際は、NO.1を探しに、ぜひ都会と自然の両方に足を運んでみてください。



ルーフトッパー 1-Altitude からの夜景